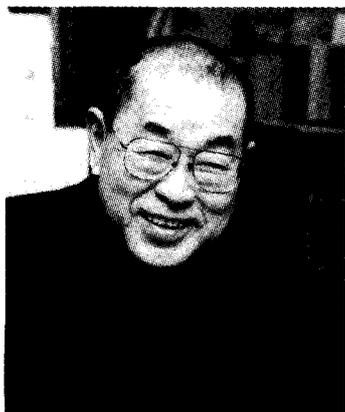


第5回「一紅会」主催
新春講演会



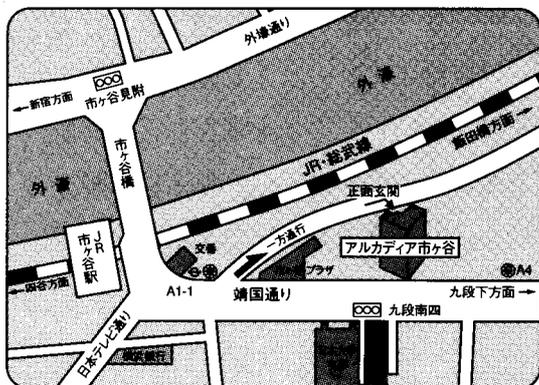
丸山 昭 ●プロフィール
MARUYAMA AKIRA

1930年山梨県生まれ。1948年甲府中学卒業。
習院大学哲学科卒業。

1953年講談者入社。「少年クラブ」編集部を経て「少女クラブ」編集長「少女フレンド」副編集長を歴任。手塚治虫氏をはじめ、石ノ森章太郎、赤塚不二夫、水野英子、うしおそうじ、ちばてつや各氏を担当。編集を退いた後、アメリカ美術通信教育システムの移植、日本版マンガ通信教育に取りくむ。1993年著書「まんがのカンツメ…手塚治虫とトキワ荘の仲間たち」刊行(ほるぷ出版)。1999年著書「トキワ荘実録…手塚治虫と漫画家たちの青春」刊行(小学館文庫)。2001年第5回・手塚治虫文化賞(朝日新聞社主催)の特別賞を受賞。



編集者時代、手塚治虫氏(右)と…



営団地下鉄 有楽町線・南北線 市ヶ谷駅(A1-1)出口から徒歩2分
都営地下鉄 新宿線 市ヶ谷駅(A1-1, A4)出口から徒歩2分
JR市ヶ谷駅から徒歩2分

漫画ブームの夜明けに

編集者サイドのノン・フィクション奮闘記

講師 丸山 昭氏

2001年「手塚治虫文化賞・特別賞」(朝日新聞社主催)を受賞された丸山 昭氏をお迎えして、お話を伺います。丸山氏は児童雑誌編集者として手塚治虫氏と長く付き合い、漫画の新時代をめざしました。ストーリーまんがを熱心に支援し、若い作家たちを一流に育てる奮闘の日々を、著書にも書かれています。

その功績は、いま隆盛をきわめる漫画文化への大きな貢献としてたたえられ、特別賞を贈られました。

今回、まんがファンはもちろん、まんがをあまり知らない人にも、面白くタメになる「まんがワールド」を語って下さるとか。お話のあとはパーティーで同窓の皆様との語らいを充分にお楽しみください。

《日 時》 16:30

平成14年1月26日(土) 13:00~~~17:00~~

《会 費》

4,000円 懇親会(ロリポップ・パーティ)費を含む

*飲みもの、軽食を用意しております

《会 場》

アルカディア市ヶ谷(私学会館)

千代田区九段北4-2-25(左記の地図参照)

TEL. 03-3261-9921(代)

出席・欠席のお返事は 12月15日 までに同封ハガキにてお願い致します

一紅会会長 五十嵐 節子

一紅会 主催

第5回「新春講演会」開催の御案内

晩秋の候、皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

このたび一紅会主催の「新春講演会」を、来春1月、別紙のとおり開催いたしますので、皆様には是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。

甲府一高を卒業した女性たちのネットワーク「一紅会」は、同窓会活動の一つとして会員相互の協力による新春講演会を実施してまいりました。

各方面でご活躍の同窓の方を講師に迎え、有意義なお話を伺うとともに、ひき続き懇親会で皆様がたに親睦を深めていただきますよう企図しておりますが、幸いこれまでに、ご参加の皆様から非常なご好評を賜りました。

ご支援の声に励まされて、ここに第5回開催のはこびとなりましたことは、大きな喜びでございます。

今回は、「手塚治虫文化賞」を受賞された丸山 昭氏を講師にお迎えいたします。私たちの大先輩が、いま先端メディアである漫画の発展に、先達としておられました。同窓の輪の多彩さ豊かさへの新たな感慨をこめて、心暖まるユーモアの世界に、皆様をお誘い致したいと存じます。

何とぞお誘い合わせの上、ご参加くださいますよう、お待ち申し上げます。

以 上

新春講演会に寄せて

甲府一高東京同窓会
副会長 恩 田 宗

今年の一紅会主催の新春講演会は、甲府中学出身の丸山昭さんをお招きして、話を聞くのだという。たいへん素晴らしい選択で、私も是非出席したいと思っている。

実は、うかつな事に、私はこの講演会のことを聞くまで、われわれの先輩の中にこんなユニークで立派な業績を残した方がおられたとは知らなかった。ご著書の「トキワ荘実録…手塚治虫と漫画家たちの青春…」を読んでわかった事であるが、丸山さんは、講談社の雑誌編集者として、多くの漫画家を育て、いまの日本の漫画文化の基礎を築いた人である。

日本の漫画は世界中で愛されており、いまや漫画は芸術文化の一形態として重要な地位を占めている。日本の世界に対する誇りうる文化的貢献の一つと言える。丸山さんは、この日本漫画の隆盛を導いた一大功労者であり、今年6月には、手塚治虫文化賞を受賞されている。

丸山さんと漫画家たちとの交流は、まさに抱腹絶倒するような話に溢れている。また、今のストーリー漫画が育ってきた過程も、漫画についてはやや門外漢の私にも興味深いものがある。一紅会の皆さんと一緒に話を伺えるのを楽しみにして待ちたいと思う。

「漫画」から「マンガ」へ

* 漫画がマンガに脱皮した時代 (1950年代)

児童雑誌：指導媒体から娯楽媒体へ、読み物中心からビジュアル化の流れ

交代の時代 前世代⇒同世代、(少女マンガ) 男性⇒女性

受難の時代＝悪書追放運動

55(S30)年ころ：マンガは低俗、幼稚、荒唐無稽、非道德的、非教育的で、
子どもの知能の発達を阻害する⇒マンガを載せている本は悪書⇒不買運動

<2000年、OECD(経済協力開発機構)の学習到達度調査>

マンガ戦国時代(50年頃から)

新しいジャンル、新しい作家への需要

人気マンガ家争奪戦⇒カンヅメ合戦

3本柱＝(マンガ)＋(ふろく)＋(少女スター)

* 手塚治虫という天才

ストーリーマンガのパイオニア

1928/11/3～1999/2/9 兵庫県宝塚市出身、医学博士

新ジャンルの開発、新技法の開発

圧倒的な質と量の作品

描いたテーマは1000点を超え、内マンガは700余作品、アニメーションが
60余作品

難物作家の代表⇒順番会議、カンヅメと座り込み

天才と努力、体力

* トキワ荘の仲間たち

トキワ荘とは

52(S27)年新築 豊島区椎名町(現・南長崎3丁目)目白からバスで10分

木造2階建て約20室のアパート 炊事場・トイレ共同 82(S57)改築

マンガ家の卵の オアシス(梁山泊)

手塚治虫、寺田ヒロオ、藤子不二雄、鈴木伸一、石ノ森章太郎、赤塚不二夫、
水野英子、よこたとくお、森安なおや

<通勤組>永田竹丸、つのだろう、長谷邦夫、園山俊二

石ノ森章太郎・赤塚不二夫・水野英子のトリオ

56-05-04 石森章太郎入居、赤塚不二夫同居(1年間ほど)

58-03～10 水野英子入居(U.MIA作品を仕上げる6カ月間)

U.MIA 3人の合作*赤い火と黒かみ*星はかなしく*くらやみの天使

共同作業：U.MIA、いづみあすか ちば・手塚代作

* 漫画 ⇒ まんが ⇒ マンガ ⇒ MANGA

漫画 (戦前) = 「漫画」は、ギャグ・ユーモアがあれば十分、笑わせるのが目的

* フクチャン (横山隆一) * のらくろ (田河水泡) * 冒険ダン吉 (島田啓三)

まんが (ストーリーまんがの出現=48年ころ~) = ストーリーが中心、ギャグ・ユーモアは必要だがそれだけでは「まんが」とはいえない

新しいジャンルの開拓 (小説と同じ幅をカバー)

* あんみつ姫 (倉金章介) * リボンの騎士・ジャングル大帝・鉄腕アトム (手塚治虫) * おせんち小町 (うしおそうじ) * フィチンさん (上田トシコ) * 星のたてごと (水野英子) * ママのバイオリン・ちかいの魔球 (ちばてつや) * 山びこ少女 (わたなべまさこ)

マンガ = (劇画の出現(56)・少年週刊誌創刊(59)=50年代後半~) = もはやギャグ・ユーモアがなくても、ストーリーで読ませる「マンガ」に発展

劇画: リアルな描写 (剣豪・忍者、秘密地下組織、ハードボイルド、暴力)

* 忍者武芸帳 (白土三平) * ゴルゴ13 (さいとうたかを)

青年マンガ・レディース・コミック: 大人のマンガ (現実社会・恋愛・性)

* ファイヤー! (水野英子) * あした輝く (里中満智子) * ベルサイユのばら (池田理代子) * 風と木の詩 (竹宮恵子)

情報マンガ: 知識・教養・文化を提供する

* 日本経済入門・日本の歴史 (石ノ森章太郎)

MANGA = マンガのコミュニケーション媒体としての地位の確立 ⇒ 国際化

MANGAの海外進出 (アニメの輸出)

◎ 高度に効率的な情報伝達 (コミュニケーション) の媒体

『低俗な娯楽、こどもの読み物、ひまつぶしのエンターテインメント』から『正確に、迅速に、ことばの壁を超えて、情報・映像・観念を伝達できる媒体』へ発展

積極的に利用すべき道具

「萬画」宣言: 石ノ森章太郎 = マンガは森羅万象を扱うことのできる媒体である

◎ 芸術・文化としてのマンガ

文学的・詩的作品の出現

文学的 * 同棲時代 (上村一夫) * 赤色エレジー (林静一) * ねじ式 (つげ義春) * ポーの一族 (萩尾望都)

詩的 * ジュン (石ノ森章太郎)

研究者・評論家の輩出 ⇒ 日本マンガ学会の創立

丸山 昭 (まるやま あきら) 氏

*2001年(朝日新聞社主催)第5回「手塚治虫文化賞」特別賞を受賞。6月7日贈呈式

手塚治虫文化賞：現代マンガに大きな足跡を残した手塚治虫氏の業績を記念する文化賞。マンガ大賞と特別賞の2部門がある。

(1) マンガ大賞：前年発行されたマンガ単行本を対象とする

選考委員(荒俣宏氏など、評論家・映画評論家・作家・教授など15名)

2001年大賞/岡野玲子・夢枕獏「陰陽師」。優秀賞/しりあがり寿「弥次喜多」

(2) 特別賞：マンガ文化の発展に貢献した事業や功績を対象とする

選考(委員や関係者の推薦を基に朝日新聞社が選考)

2001年特別賞/丸山 昭

編集者として、石ノ森章太郎や赤塚不二夫らトキワ荘に集まった多くのマンガ家を育成した功績により受賞。編集者としては初の受賞者

*丸山氏プロフィール

1930年 山梨県生まれ/ 甲府中学卒業/ 学習院大学哲学科卒業

1953年 講談社入社

「少年クラブ」編集部を経て「少女クラブ」編集長、「週刊少女フレンド」の副編集長を歴任。

編集者として、手塚治虫氏と長く付き合い、石ノ森章太郎、赤塚不二夫、水野英子、うしおそうじ、ちばてつや各氏を担当した。その他、多くの漫画家と交流、育成に勤め、マンガの世界を広げた。

手塚治虫「リボンの騎士」の担当をきっかけに、ストーリーで読ませるマンガを熱心にサポート。現在定着している「ストーリーマンガ」を育成した。

1993年 著書「まんがのカンヅメ…手塚治虫とトキワ荘の仲間」(ほるぷ出版)刊行

1999年 著書「トキワ荘実録…手塚治虫と漫画家たちの青春」(小学館文庫)刊行

*選考委員・水野英子氏コメント

「手塚先生と丸山氏は、ストーリーマンガ黎明期の2本柱だった。丸山氏は、画き手の個性を尊重し(略)紙面提供をして下さった。赤塚、石ノ森氏も著書の中で『丸山氏がいなかったら、今の自分はなかった』と言っている。(略)ストーリーマンガを拡大し、主力となっていたのには、丸山氏の大きな尽力があったからである」

第5回 手塚治虫文化賞

特別賞

丸山昭さん

編集者としてトキワ荘のマンガ家を多数育成



まるやま・あきら 30年、山梨県生まれ。53年に講談社入社、「少年クラブ」編集部を経て「少女クラブ」編集長、「週刊少女フレンド」副編集長を歴任。石ノ森章太郎のプロ第1作「まだらのひも」を手がけ、ほかに手塚治虫、赤塚不二夫、水野英子、うしおそうじ、ちばてつや各氏を担当した。

一流と出会え幸せ

編集者として長くおつき合いました手塚先生の名を冠した賞、そして、新しい少女マンガに共に挑戦した石森(石ノ森)章太郎さんにももらった賞ですから、とてもうれし

い。「裏方」が賞をいただいた方がいいのか、戸惑いながら大きいんですが。手塚先生といえはウツツキで(締め切りを守ってられない)、ガンコでみたいと思います。手塚先生の部屋で原稿



石ノ森章太郎氏が描いたトキワ荘時代の丸山昭氏 ©石森章太郎プロ

を待っている時、3人の少年が訪ねてきた。石森さん、赤塚不二夫さん、長谷邦夫さんです。この出会いから、「お涙ちょうだい」が主流だった少女マンガで、石森さんにSFやミステリーをかい



丸山昭著「トキワ荘実録—手塚治虫と漫画家たちの青春」(小学館文庫)

が集うトキワ荘に通う日々となりました。トキワ荘は彼らにとっ

でも「育てた」なんてとても。僕はチャンスに恵まれていただけです。今、「ゲームにいい才能を奪われて」とか「携帯電話にお小遣いを取られて」といった弱音を若い編集者から聞きますが、マンガは筆一本で勝負できる世界。前向きに次の時代のマンガをつくって

は、ひそかな誇りです。描き手の個性大きく育てた。選考委員・水野英子氏のコメント。手塚先生との丸山氏は、ストーリーマンガ黎明期の2本柱だったと思う。氏は描き手の個性を尊重し、個々の魅力を最大に生かせるような誌面提供をして下さった。赤塚、石ノ森両氏も著書の中で、「丸山氏がいなかったら、今の自分はなかった」と言っている。私も同じである。講談社「少女クラブ」を経て成長していった者たちが、手塚先生後のストーリーマンガを拡大し、主力となっていけたのには、丸山氏の大きな尽力があったからである。

「新春講演会」参加者 名簿

s 1 1	新津成美
s 1 2	桂田義雄
s 1 8	渡辺喜一
s 2 3	秋山哲郎 志村道雄 甘利章成
s 2 4	伊藤一行 坂本順二
s 2 6	名取慶二
s 2 7	恩田 宗 中村 徹 山下総一郎 内藤健二
s 2 8	青柳正治 岡田恭子 岡田光郷 北村博江 塩瀬治夫 有野二夫 望月沙世子 渡辺圭子 近藤都登
s 2 9	浅川英司 浅川博道 阿部知美 雨宮弘子 五十嵐節子 池谷亮一 石川眞好 石原和清 小美濃みの子 笠井隆夫 近藤敏子 近藤雅彦 石藤好司 鈴木清昭 戸田房子 中澤京子 堀井健二 山岸隆史
s 3 0	鮎川ますみ 石川静子 井上若子 長田康正 神田四郎 木島千寿子 近藤文子 塩瀬昭子 神宮寺房義 巽恒 土橋都代 轟佐知子 松野春樹 森田せい子 森沢正好 八木原順子 矢崎仁一 鶴田美智子
s 3 1	井上幸彦 芦澤修二 岩本福喜 浅川治男 石井澄夫 角田由和 鎌崎宣好 平賀一郎 井上高明 名取正
s 3 2	石原二三枝 若尾和子 山下悦子
s 3 3	秋山要子 飯田富美子 河内一郎 笠井完爾 酒井忠弘 桶川紘一
s 3 4	内藤勲子 佐藤浩子 伊東昭子 横森一三 米山てるみ 佐藤陽子 加賀谷貞子 蓮沼敏子 中村禮子 片桐 惠 南真紀子 斉藤峰子
s 3 5	江口嘉郎 大野紘一 小笠原紘子 古明地昭雄 志村昌也 作道恒 内藤章子 布施百合子 渡井富雄
s 3 6	中村敏男 太田東洋男 窪田祐一 末木隆夫 小野京子 前馬美代子 土川俊雄
s 3 7	山本昌 荒井彌征 篠原正邦 黒田順子 シマング房江 小松寿恵 古明地勝昭 篠原しげ子
s 3 8	武内紘司 矢野峻行 山田常夫 会田洋子 池田美子 木村貞子 梅沢梅子 鈴木紀子 中野千鷹 矢口百合子 雨宮由里子 前中かつ子
s 3 9	井上悠子 相原正樹 秋山魁一 網笠純子 飯島善一郎 石原ヤス 大木芳子 小野浩道 加賀美睦美 仲井康和 久保中川 小林和代 小長谷泉 上田波羅武 藤古堀 高丸 子 田宮 洪太 原月文
s 4 0	佐野充夫 斉藤勝人 上田智洋 原護 水谷康志 宇野由美子 市橋幸子 林秋子 山懸秋江 安間春子 市野澤裕子 平野信子 水谷園江 堀田豪 中野洋文
s 4 1	井上喜由子 手塚彰夫 雨宮勝美 関岡美佐子 高木悦子 中井久子 芳賀佳寿子 深沢永子 松岡啓子
s 4 2	萩原なみ江
s 4 3	斉藤秀文 両角益資 竹中みゆき 野沢春海
s 4 4	(7)
s 4 5	市村一司 飯島康二 飯島登美夫 設楽久敬 佐野雅昭
s 4 7	小川早苗 佐藤みどり
s 4 8	石川ゆり子 小山久枝 武井ちあき 辻 恵美子 林野妙子 八田政仁 篠原妙子 城場美代子
s 5 0	荒木たかね 斉木裕子 三神智美 中島眞理
s 5 1	武藤公明 海沼弘忠 渡辺ひろ子 望月裕子
s 5 2	飯野正仁 成島和仁 島田敏男 射場きよみ 磯部 紀 新津とし子 藤田早苗 中山初美

第5回「一紅会」主催
新春講演会



丸山 昭
MARUYAMA AKIRA ●プロフィール

1930年山梨県生まれ。1948年甲府中学卒業。
○習院大学哲学科卒業。
1953年講談者入社。「少年クラブ」編集部を経て「少女クラブ」編集長「少女フレンド」副編集長を歴任。手塚治虫氏をはじめ、石ノ森草太郎、赤塚不二夫、水野英子、うしおそうじ、ちばてつや各氏を担当。編集を退いた後、アメリカ美術通信教育システムの移植、日本版マンガ通信教育に取りくむ。1993年著書「まんがのカンツメ…手塚治虫とトキワ荘の仲間たち」刊行(ほるぶ出版)。1999年著書「トキワ荘実録…手塚治虫と漫画家たちの青春」刊行(小学館文庫)。2001年第5回・手塚治虫文化賞(朝日新聞社主催)の特別賞を受賞。

漫画ブームの夜明けに

編集者サイドのノン・フィクション奮闘記

講師 丸山 昭氏

2001年「手塚治虫文化賞・特別賞」(朝日新聞社主催)を受賞された丸山 昭氏をお迎えして、お話を伺います。丸山氏は児童雑誌編集者として手塚治虫氏と長く付き合い、漫画の新時代をめざしました。ストーリーまんがを熱心に支援し、若い作家たちを一流に育てる奮闘の日々を、著書にも書かれています。

その功績は、いま隆盛をきわめる漫画文化への大きな貢献としてたたえられ、特別賞を贈られました。

今回、まんがファンはもちろん、まんがをあまり知らない人にも、面白くタメになる「まんがワールド」を語って下さるとか。お話のあとはパーティーで同窓の皆様との語らいを充分にお楽しみください。



編集者時代、手塚治虫氏(右)と…



宮団地下鉄 有楽町線・南北線 市ヶ谷駅(A1-1)出口から徒歩2分
都営地下鉄 新宿線 市ヶ谷駅(A1-1, A4)出口から徒歩2分
JR市ヶ谷駅から徒歩2分

《日 時》 16:30

平成14年1月26日(土) 13:00~17:00

《会 費》

4,000円 懇親会(ロリポップ・パーティ)費を含む
*飲みもの、軽食を用意しております

《会 場》

アルカディア市ヶ谷(私学会館)
千代田区九段北4-2-25(左記の地図参照)
TEL. 03-3261-9921(代)

出席・欠席のお返事は 12月15日 までに同封ハガキにてお願い致します

第5回 手塚治虫文化賞

特別賞

丸山昭さん

編集者としてトキワ荘のマンガ家を多数育成



まるやま・あきら 30年、山梨県生まれ。53年に講談社入社、「少年クラブ」編集部を経て「少女クラブ」編集長、「週刊少女フレンド」副編集長を歴任。石ノ森章太郎のプロ第1作「まだらのひも」を手がけ、ほかに手塚治虫、赤塚不二夫、水野英子、うしおそうじ、ちばてつや各氏を担当した。

一流と出会え幸せ

編集者として長くおつき合っていた手塚先生の名を冠した賞、そして、新しい少女マンガに共に挑戦した石森(石ノ森)章太郎さんももらった賞です。これから、とてもうれし

石ノ森章太郎氏が描いたトキワ荘時代の丸山昭氏
©石森章太郎プロ



を待っている時、3人の少年が訪ねてきた。石森さん、赤塚不二夫さん、長谷邦夫さんです。この出会いから、「お涙ちょうだい」が主流だった少女マンガで、石森さんにSFやミステリーをかいてもらったり、石森さん、赤塚さん、水野英子さんの3人に、「U・マリア」のペンネームで合作してもらったり。彼ら

が集うトキワ荘に通う日々となりました。

トキワ荘は彼らにとっ

て人格形成の場、人生の原点、青春そのものな放運動」のあらしから逃れられるオアシスでもあったと思います。担当した人たちがみな一流のマンガ家になっていったのは、ひそかな誇りです。

描き手の個性
大きく育てた

でも「育てた」なんてとても。僕はチャンスに恵まれていただけです。今、「ゲームにいい才能を奪われて」とか「携帯電話にお小遣いを取られて」といった弱音を若い編集者から聞きますが、マンガは筆一本で勝負できる世界。前向きに次の時代のマンガをつくってほしいですね。



丸山昭著「トキワ荘実録―手塚治虫と漫画家たちの青春」(小学館文庫)